

J-NET中央

2017年賀詞交歓会を開催

地域卸の共同仕入れ機構であるJ-NET中央は、1月13日に賀詞交歓会を開催し、取引先やメーカー、メンバー社員ら145名が参集した。会の冒頭、戸塚雄二社長は2016年2月21日から12月20日までの業績について、売上高が前年同期比3.5%増の187億1046万円、経常利益が0.8%減の2億9028万円となったことを報告した。インバウンド需要の恩恵により大幅に売上が伸びた昨年度と比較し、「厳しくなると覚悟していたが、ほぼ予定通りに推移した」という。なお、2017年2月期の決算は、売上高が前年比2.0%増の219億9000万円、メンバー社への売上払い戻し後の経常利益は2.0%増の49000万円を見込む。



戸塚社長

戸塚社長は挨拶の中で、今後5年以内に起こるであろう業界内の劇的な変化に関するキーワードとして、「消費税増税」「東入が国会で成立している」「消費増税」「人工知能(AI)」を挙げた。戸塚社長は、「消費税と増税になってしまいう可なり、2019年10月1日に消費税率10%への移行と軽減税率の導入が国会で成立している。効果での変な不景気が予測される」と語る。さらには人口面でも「今年から4年間で2.6%、つまり50万人以上の人口が減少すると予測されている」とも景気減少の大きな要因と言われている。近い将来、業界を取り巻く環境は非常に厳しくなると警鐘を鳴らした。

戸塚社長は、「消費税と増税になってしまいう可なり、2019年10月1日に消費税率10%への移行と軽減税率の導入が国会で成立している。効果での変な不景気が予測される」と語る。さらには人口面でも「今年から4年間で2.6%、つまり50万人以上の人口が減少すると予測されている」とも景気減少の大きな要因と言われている。近い将来、業界を取り巻く環境は非常に厳しくなると警鐘を鳴らした。

また、以前のディスプレイストアは商品の価格を下げることで複数購入を促進し売上を伸ばしていたが、現在は価格を下げて売上を伸ばさない状態となっている。戸塚社長は、「この状況を打破する技術が人工知能(AI)だ」と語る。

AIに関しては、Amazonがアメリカ・シアトルにて、「Amazon Go(アマゾンゴー)」というレジのない完全自動の食料品A1店舗を運営している。同店舗は約30坪とコンビニと同規模で、AIが自動識別し、レジを通すことなく会計を終了できるため、人件費を削減できる。

さらには自動車メーカーのAudiが世界初の自動運転による車を導入すると発表し、日産はドライバーの監視の必要のない車を2020年まで開発する計画を発表している。

ない車を2020年までに発売すると発表している。運転者の人件費がコストの約50%を占める運送業では、一定のコースを定時で配送する小売業の物流に自動運転を導入すると大きなランニングコスト削減になることが、「比較的早く導入される可能性がある」と見通しを述べた。

最後に、「ずいぶん突拍子のないことを言ったと思うが、あくまでも今後5年間に起こりうる可能性の話と考えて欲しい」と前置きしつつ、「しかしながら、今後このような劇的な変化が起きるのではあれば、我々卸売業は現在と未来という2つの視点で自社のありべき姿を明確にし、対応していかなければならぬ。メーカー、仕入れ先の皆さんとコミュニケーションをとりながら力を合わせて取り組んでいきたい」と語った。

エスグラでは、7月のファイナルグランプリまでに地域勉強会やサロンオーナー交流会、未来のエステティシャンづくりのためのスクール講義など様々な活動に取り組んでいく。今期は、会報誌を創刊するなど広報活動にも注力する方針だ。

新年会で第7回大会に向け エスグラ 決意表明

エステティック業界の発展とエステティシヤンの地位向上を目指し、エスグレティシヤンが主役となって輝ける最高のステージを提供するために「エステティックグランプリ」を開催している。一般社団法人エスグレティシヤンランプリは1月18日、都内で新年会を行った。新年会には、エスグラの活動を支援するサポーター企業など23社が参加した。

昨年の第6回大会は、3代目理事長の奥村優之氏(ベレカ社長)の下、「挑戦」をテーマに開催された。これまで関東で開催していたが、地方のサロンからは「行きたくても遠くへ行けない」という声も多く、前回はその声に応える形で初の大阪開催となった。第7回目となる今年7月12日に名古屋でグランプリファイナルが行われる。

奥村理事長(左)と三谷次期理事長(右)が挨拶している。

「花椿」が経産省商務情報政策局長賞を受賞

資生堂

資生堂の企業文化誌「花椿」は、一般社団法人日本印刷産業連合会とフジサンケイビジネスアイが主催する「第58回全国カタログ展」のカタログ部門において、経済産業省商務情報政策局長賞を受賞した。

常時代の最先端を伝え、美の本質を追い求めてきた同誌の遺伝子を確実に受け継いでいることが評価された。また、「花椿」は、第56回の文部科学大臣賞、第57回の経済産業大臣賞に続き、今回で3年連続の受賞となった。

高額商品、製品通販、各種案内、PR誌・フリーペーパー、各種報告書に分かれ、各部門の金賞の中から経済産業大臣賞、文部科学大臣賞、経済産業省商務情報政策局長賞が選ばれる。審査員はデザイナー

奥村理事長(左)と三谷次期理事長(右)が挨拶している。

奥村理事長(左)と三谷次期理事長(右)が挨拶している。

2016年11月にリニューアルした「花椿」の新装刊0号が企業のPRを担う媒体として



「花椿」は、第56回の文部科学大臣賞、第57回の経済産業大臣賞に続き、今回で3年連続の受賞となった。

奥村理事長(左)と三谷次期理事長(右)が挨拶している。

奥村理事長(左)と三谷次期理事長(右)が挨拶している。



奥村理事長(左)と三谷次期理事長

奥村理事長(左)と三谷次期理事長(右)が挨拶している。